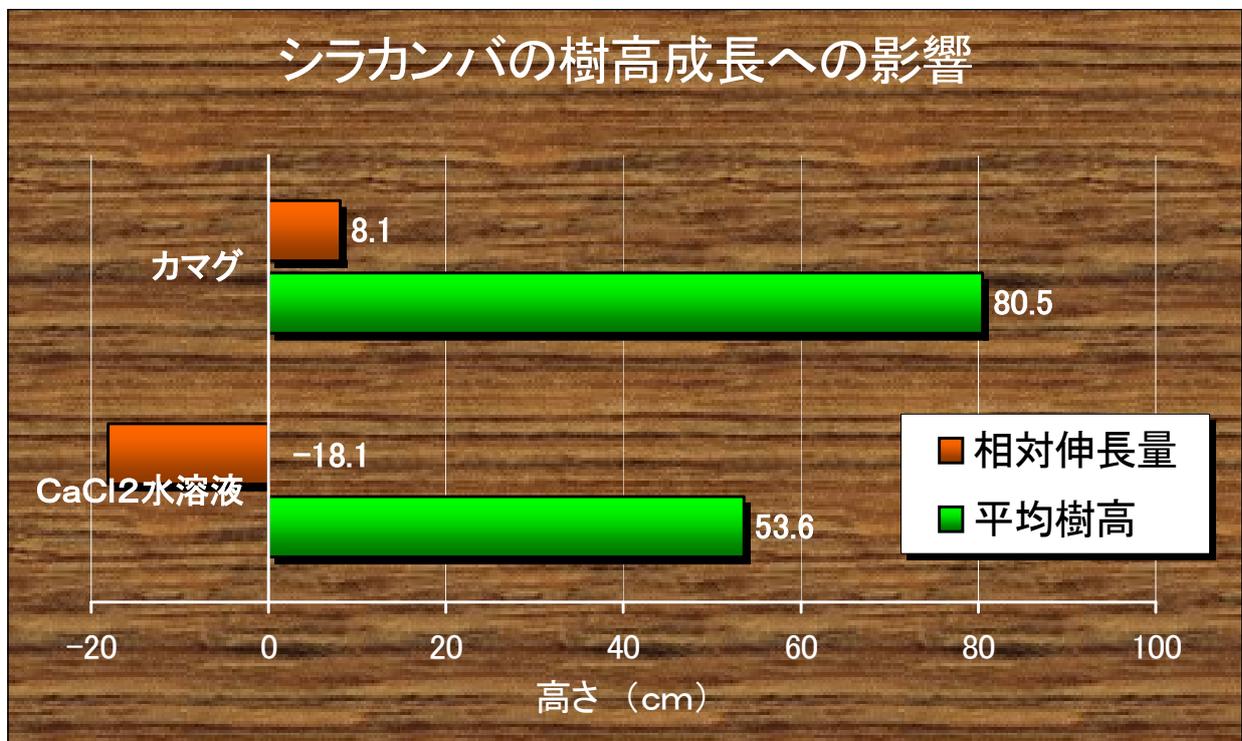
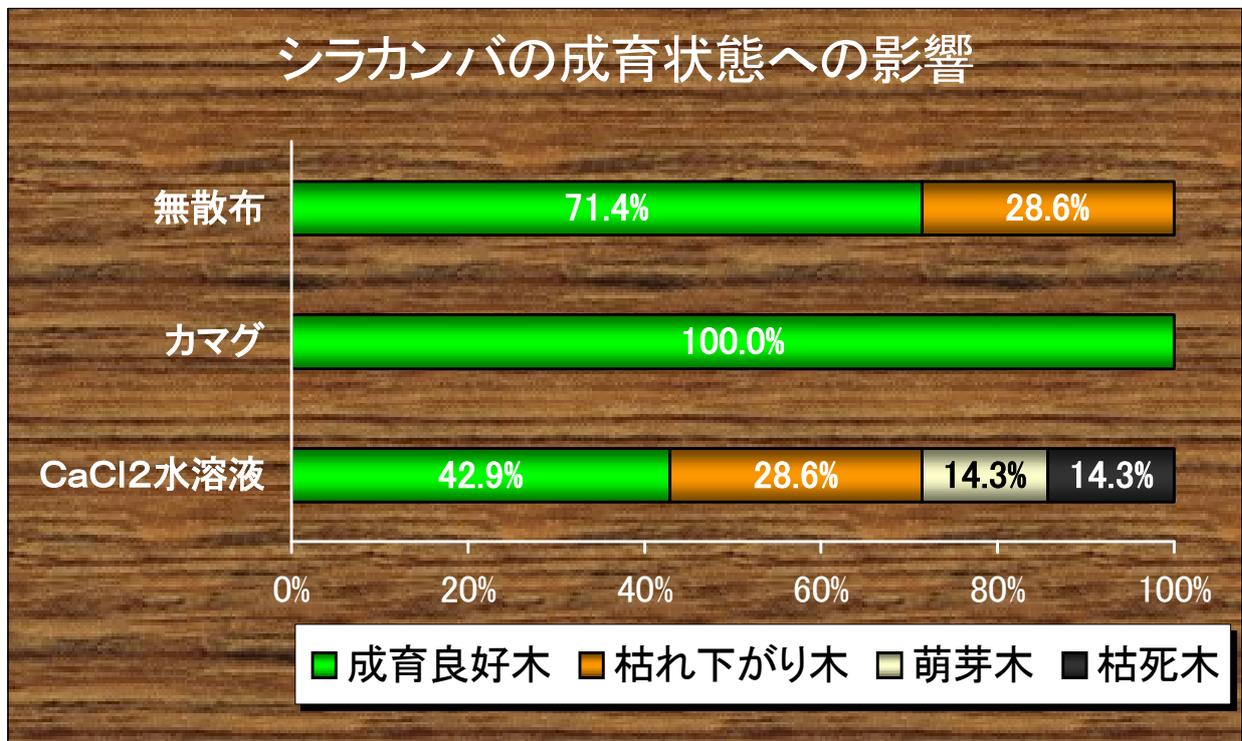


凍結防止剤「カマグ」の樹木への影響



【試験方法】

樹 種 : シラカンバ

供 試 数 : 各試験 苗木 7本

凍結防止剤 : カマグ(主成分濃度5%)、塩化カルシウム水溶液(濃度5%)

散 布 方 法 : 12月下旬から翌年3月上旬まで期間、週1回づつ(合計10回)、凍結防止剤を苗木の根元に噴霧器で散布した。尚、1回の散布量は $195\text{ml}/\text{m}^2$ とした

試 験 実 施 : 北海道立林業試験場

【評価方法】

成育状態

散布が終了した年の8月に成育状態の調査を実施した。状態の区分は以下の基準で行った。

「成育良好木」: 仮頂芽が開葉して、通常に成育していると判断されるもの

「枯れ下がり木」: 仮頂芽が開葉せず、幹の先端から途中まで枯れているものの、葉が幹の途中まで着いているもの

「萌芽木」: 幹が完全に枯れて、根元付近から新たに萌芽してきたもの

「枯死木」: 完全に生きている部位がなく、今後萌芽することもないと判断されたもの

樹高成長

樹種の成長が停止した時点で、個体ごとに樹高、樹高の今年伸びた長さ(伸長量)、枯れている幹部の長さ(枯れ下がり長)を測定し、平均樹高と相対伸長量(相対伸長量=伸長量-枯れ下がり長)を求めた。



日本工機株式会社